

外国語	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
1年	<p>【文字と音との関係】 ○文字と音との関係を理解し、初見の単語を読めるようにする。 【英語の語順】 ○日本語と英語の語順の違いになれさせる。 【語彙の定着】 ○語彙力の向上を図る。 【コミュニケーション能力】 ○身の回りの事実を英語で表現できるようにする。</p>	<p>【フォニックスの指導】 ○フォニックスを取り入れ、文字と音との関係を慣れさせる。 【語順トレーニングの習慣化】 ○整序作文のドリルを取り入れ、日本語と英語の語順の違いを覚え込ませる。 【身の回りの出来事についてのQ&amp;Aと言語活動】 ○授業の初めに既習の文を用いてのQ&amp;Aをできるだけ多くの生徒と行い、自然に英語を口にできるようにする。基本文の導入時にできる限り自然な場面設定の言語活動を取り入れる。 【教科書本文の理解】 ○聴く力、読む力を養うために教科書本文をリスニング問題・読解問題形式で行う。異文化に目を向けさせ、自国の文化も意識させる。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】 ○実際の出来事や自分の背景を踏まえて相手とやりとりをし、目的や場面・状況に応じて考え工夫して表現する。 【基本文の導入時の工夫】 ○新出の文法事項の導入に於いて、生徒にとって意味のある場面を設定する。授業の始まりに毎回、日常生活に関するQ&amp;Aを行う。 【言語活動の工夫】 ○基本文の定着のため、できる限り自然な場面設定の言語活動を行う。</p>	
2年	<p>【書く力の定着】 ○学力調査や定期考査の結果から、知識を使って「書くこと」を苦手とする生徒が多い。正しい語順で、または品詞の使い分けができるようにする。 【コミュニケーション能力】 ○英問英答のコミュニケーション活動では、質問は理解できるものの、正しく表現できない生徒が多い。常活動で継続的に自分のことを表現することを定着させる。 【基礎の定着】 ○その時間に学習した内容が理解できても家庭学習の不足から、定着しない生徒が多い。音読の機会を増やすなど、基礎力の定着をはかる。</p>	<p>【まとまった文章を書く練習】 ○一文字の文章を数文書く練習から、つなげてまとまった文を書く演習をしていく。 ○答えのない、オープンエンドな質問に対しても、自分の考えや気持ちを表現できるように自由英作文に取り組む。 【言語活動の充実】 ○ペア活動やグループ活動、インタビュー活動を取り入れ、発話の経験をたくさん設ける。 【演習問題】 ○学習したことを活用できるように、ワークやドリルを使い演習の時間を設ける。読んで書く、聞いて書くなど複数の領域で理解させる。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】 ○題材に沿った内容で、自分自身のことについてペアやグループで述べる機会を多く設ける。 【基本文の導入時の工夫】 ○視覚教材も多く使う、または場面設定を工夫するなどして生徒が自分自身のこととして捉えられるように工夫する。 【言語活動の工夫】 ○生徒同士だけではなく、ALTとのやりとりを多く設ける。授業内でも、発表の機会を多く取り入れる。</p>	
3年	<p>【英作文】 ○今まで習った表現を使って自分の考えを述べるようにする。 【英文の読み取り】 ○物語の背景を理解しながら読み進めることができるようにする。代名詞や指示語が指す内容を読み取ることができるようにする。 【コミュニケーション能力】 ○英語を積極的に話す生徒がほとんどだが、日本語が混ざってしまう生徒もいる。 【文法の理解】 ○基本的な文法用語や品詞の働きを理解できない生徒が多い。新出文法導入時に毎回繰り返し説明する必要がある。</p>	<p>【英作文の練習】 ○テーマに沿って書く、または既習文法を使って自分のことについて書く課題を与える。 【教科書本文の理解】 ○聴く力、読む力を養うために教科書本文をリスニング問題・読解問題形式で行う。 【コミュニケーション活動の工夫】 ○スクリプトを用意し苦手な生徒でも簡単なやりとりができるようにする。ALTと会話をする時間をつくる。 【品詞や用語の理解】 ○定型文を覚える方法もあるが、単語練習や新出文法を覚える際に品詞や語の役割を解説し文の構造を定着させる。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】 ○異文化理解のための補助教材の活用やドリル的ではなく自分自身のことを述べる練習を取り入れる。 【基本文の導入時の工夫】 ○新出の文法事項の導入に於いて、生徒にとって意味のある場面を設定する。 【言語活動の工夫】 ○やりとりや発表の機会を積極的につくり英語を使う姿勢を身に付けさせる。</p>	